2024

パーソナルスペースから考える婦人科待合室用の椅子

Your Own Personal Chair While Waiting at a Woman's Clinic

AD25　長谷川　早紀
指導教員　比留間　真

1. 研究目的

公共の待合室などはパーソナルスペースの考え方に沿って計画されている。本来パーソナルスペースは性別によっても異なるが一般的な待合室は男性も女性も利用するつくりとなっている。

そこで本研究では女性に特化した最適なレイアウトや椅子のデザインという点に着目し、検証を行う。

2. 調査と分析

はじめに、病院内で患者が女性に限定される婦人科に着目し、以下の条件を満たす病院を探し調査を行った。

- 図面が入手できる
- 実際に見に行くことが可能である
- 他の科との比較ができるよう、婦人科と他の病院が同じ構造である。

その結果、問題点として以下のものが挙げられる。

1. 婦人科と他の科が同じ椅子の配置である
2. 椅子の種類が異なる
3. モニターを見ることのできない座席がある

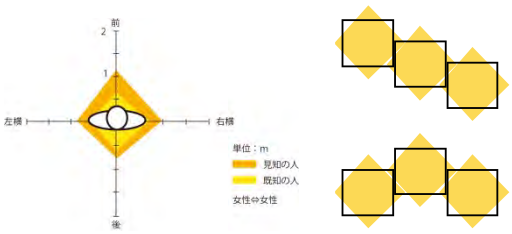
3. コンセプトの立案

「落ち着く事のできる待合室」

女性のパーソナルスペースの形状を配慮して椅子のデザインを考える。

その椅子に対して、実際のレイアウトプランの提案も行う。

4. デザイン展開



▲図 1.女性のパーソナルスペース(左)とそれを配慮した配置(右)

1. 女性のパーソナルスペース(図 1)を考慮した椅子の形状(図 2)

女性のパーソナルスペースを元に椅子の配列パターンを考え、その図を実際の図面に当てはめ、椅子の大きさを決定した。また、複数の椅子を組み合わせて配置する為、組み合われる際にガイドになるような座面の形状となった。

2. 配列への工夫(図 3)

横一列に並べられる一般的な配置方法の一種類と180 度回転させることによって前後に半分ずつずらすことのできる配置方法二種類である。これはパーソナルスペースを前後左右に充分に確保する目的がある。

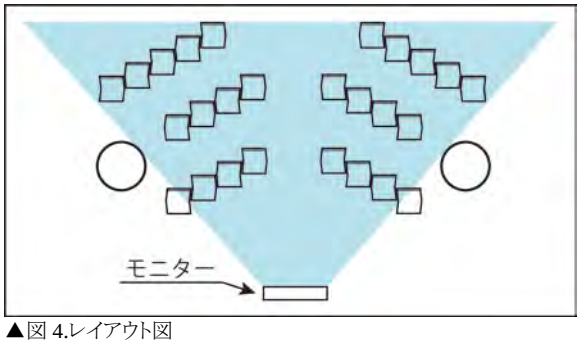
3. 婦人科待合室のレイアウト(図 4)

現状として来院者数は 30 人前後であることから座席数を決定し、呼出しモニターを全員が見ることのできるようにした

5. 完成

▲図 2.椅子の完成写真

▲図 3.配列パターン



▲図 4.レイアウト図

6. 結論

図 4 のレイアウトとほぼ同じ配置で検証した結果、左右にいる人の顔が見えない点や体が当たらない為、他の人の動きを気にしなくていいという点において不快感がないのが良いという評価だった。

また、椅子の形状として、病院という場所において、安全性を考慮する事が今後の課題である。

文　献

[1] 児玉昌久・進藤由美, "パーソナルスペースに,及ぼす特性不安の影響," 早稲田大学人間科学研究 8(1)15-24,1995-03-25